

来週の「売り物」記事はこれ



2011年9月2日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

東日本大震災から9月11日で半年になります。3月11日以来、「被災者に寄り添う紙面」を肝に銘じて新聞を作ってきました。半年に向けてさらに取材を掘り下げ、さまざまな課題を集中的に報告していきます。

スポーツの復興に芽吹き

連載「あすへの一步」— 運動面企画「インサイド」

6日から

東日本大震災による打撃から立ち直ろうとする地道な動きが、市民や学校のスポーツにも出始めています。岩手県陸前高田市では、卓球の練習場所を失った地域の中学校卓球部OBたちが、資金を集めて卓球場を作り、子どもたちにプレーの場を提供しています。福島大学は学生主体で、原発事故で県内各地のサテライト校に分散している高校生を対象にした球技大会を企画、運営するなど、スポーツ支援に乗り出しています。こうした動きは、東北の各大学にも広がろうとしています。スポーツで、子どもたちや地域住民を元気にしようという各地の動きを、6日からの運動面連載企画「インサイド」で取り上げます。



ロングインタビュー「時代を駆ける」

日本オリンピック委員会理事、橋本聖子さん

6日（火）から2週・10回



1992年のアルベールビルオリンピックのスピードスケートで日本人女性初の冬季五輪メダルとなる銅メダルを獲得した橋本聖子さん（45）＝写真。現在、日本スケート連盟会長として後進の環境整備に努める一方、日本オリンピック委員会（JOC）理事や参院議員として、スポーツ行政のかじ取りにも尽力しています。スポーツ界をリードしてきたフロントランナーに迫ります。

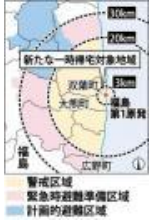
東日本大震災・どうなる食の安全①～⑩

くらしナビA面 8日（木）から

東日本大震災から半年となるのを機に、消費者が高い関心を寄せる食品と放射能被害の問題について計3回で取り上げます。福島県のモモ農家をはじめとした生産地の現状、実際の食品汚染の実態、消費者がとれる自衛策などについて詳しく紹介します。



東日本大震災・浪江町の夫婦は今 くらしナビA面 6日(火)



福島原発の事故により、福島県浪江町から東京に避難してきた夫婦の生活を追う第3回目です。今回、夫婦は初めてを許され、浪江町の自宅に戻りました。しかし、荒れ果てた自宅を見て気持ちが動揺してしまいます。夫婦の今の思いや悩みを聞きました。

サマータイムと健康

くらしナビA面 5日(月)

この夏、節電のために、始業と終業の時間を繰り上げる「サマータイム」を実施した企業や自治体が増えました。しかし、すべての時間が繰り上がったわけではないため、生活のリズムが狂い、不眠になった人もいます。専門医らに注意点を教えてもらいました。



大型シリーズ

悲しみを越えて 日本よ！ 五木寛之さん

夕刊特集ワイド面 9日(火)



地上に繰り広げられた筆舌に尽くしがたい悲劇の数々。原発の事故で露呈した「安全神話の崩壊」……。東日本大震災は日本の社会のありようを根底から変えようとしています。この悲しみを、私たちはどう受け止めればいいのか——。日本の「知性」を代表する作家、批評家の話にじっくり耳を傾ける大型シリーズは、震災半年を迎えるのを機に「悲しみ越えて 日本よ！」に模様替えします。

リニューアル1回目は、作家の五木寛之さん＝写真＝が登場します。震災後の日本の姿を「下山の時代」と呼ぶ五木さんは、「泣きたいときに泣こう」と、「悲しみの効用」を説きます。その真意は——。

“知りたいが分かる”がモットーの夕刊「特集ワイド」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。